



大手町スタート直後、日比谷通りを走る各校の選手たち

©Getsuriku

箱根力走

誇りを胸に走り切った217.1km

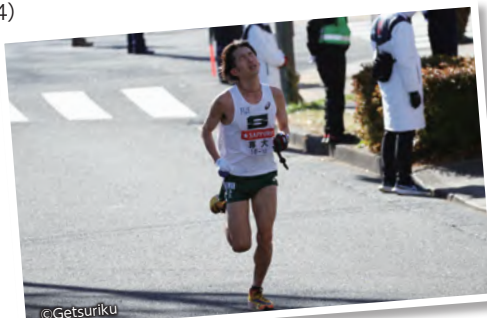
アケートを参考に
取り上げました
※アンケートの回答は巻末から



©Getsuriku

出場選手だけでなく陸上競技部の部員が一丸となって戦った箱根駅伝。各給水ポイントでは、給水係が並走しドリンクを手渡した。写真中央は5区富永選手と給水係を務めた松本薫さん（経済4）

鶴見中継所の直線に入った9区南選手。アンカーの小島選手を視界に捉えたものの無情にも繰り上げスタートの音が響き天を仰ぐ。わずか12秒及ばず、禰をつなぐことができなかった



©Getsuriku

第99回箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競走）が1月2、3日に開催され、専修大学は3年連続71回目の出場を果たした。大手町・読売新聞社前～箱根・芦ノ湖間の往路5区間（107.5km）、復路5区間（109.6km）の合計10区間（217.1km）をオープン参加の関東学生連合を含む21チームで競った。

専修大学は木村暁仁選手（経営3）と主将の高瀬桂選手（経営4）の両エースが欠場し、序盤から苦しいレース展開となったものの、出場した選手たちは懸命に走り切った。結果は往路19位（5時間38分35秒）、復路20位（5時間40分53秒）の総合20位（11時間19分28秒）で終わったが、全国の注目を集めた大舞台で「伝統のS字」を胸に堂々たる走りを見せてくれた。

往路

1月2日



1 千代島宗汰 (文2)
区 区間 20位 / 1:04'29"

©Getsuriku



2 ダンカン キサイサ (経営2)
区 区間 16位 / 1:09'05"

©Getsuriku



3 成島航己 (経営4)
区 区間 15位 / 1:03'45"

©Getsuriku



4 新井友裕 (文1)
区 区間 19位 / 1:05'46"

©Getsuriku



5 富永裕憂 (経営4)
区 区間 16位 / 1:15'30"

©Getsuriku

復路

1月3日



6 粟江倫太郎 (経営3)
区 区間 7位 / 59'30"

©Getsuriku



7 中山敦貴 (経営3)
区 区間 20位 / 1:06'36"

©Getsuriku



8 野下稜平 (経営3)
区 区間 17位 / 1:06'17"

©Getsuriku



9 南里樹 (経営4)
区 区間 19位 / 1:12'32"

©Getsuriku



10 小島光佑 (経営4)
区 区間 20位 / 1:15'58"

©Getsuriku

大手町・読売新聞社前、カメラの放列の中、最後のゴールテープを切ったアンカーの小島選手。この瞬間から、来年に向けた陸上競技部の新たな挑戦が始まった



©Getsuriku

箱根駅伝予選会は8位通過 日本人トップは木村暁仁選手

10月15日(土)の箱根駅伝予選会は、3年ぶりに東京・陸上自衛隊立川駐屯地から立川市街地を抜け国営昭和記念公園を走るハーフマラソン(21.0975km)コースで行われた。

スタートは午前9時35分。43校が参加し、各校上位10選手の合計タイムで競う。本戦の出場権を得られるのは10位まで。

専大は10時間46分56秒の総合8位で本戦出場を決めた。木村暁仁選手(経営3)は1時間2分32秒の8位で、日本人トップの成績を取めた。



国営昭和記念公園のコースを走る日本人トップの木村選手



箱根駅伝本戦出場を決めた後、生田第2体育寮前にて陸上競技部のメンバー

育友会各支部から応援メッセージ届く

予選会を前に、育友会の全国各支部から応援メッセージがハンカチにしたためられて寄せられた。ハンカチは幟にして体育会陸上競技部に届けられた。



予選会后、応援メッセージの幟は生田9号館1階に展示された